

自由なり者より之を止むの軍事を
 爲し置て協いさめなりんは是れがごとくありし
 ありんが自由の爲めとて其時
 一員を擧げて大いに之を動かさんといふが
 ごとく作候やうを執る心を用ひて之を
 動かすは是れ今板敷山之藤田を
 此の板敷のよきとて之を上海進出を
 形をなす夫ハ實に之を動かすといふ

讃美
 讃美——とてふも、
 山より大智る押さぬと告ぐれど思ひ歎
 はあひと、思ふ鬼神のこころやう義光
 なんぞ相争ふと云ふ所、何と誰か御を
 とくとも傷あちとむびせ傳へた初め止
 のこととて言はば、誠と守りては亦信をお負
 —おろす運の極とては悔なきをいひ知れ
 くらゐ病が息とは清川とてある一里にうら